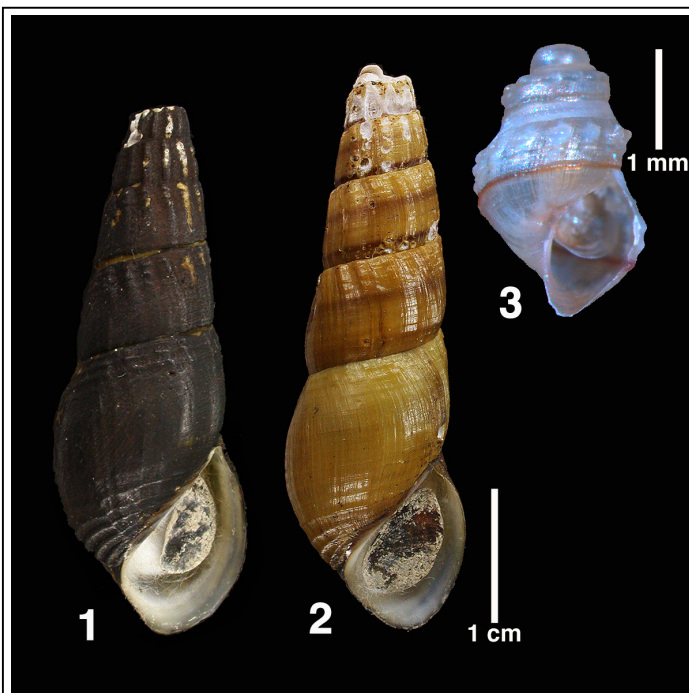


クロダカワニナ *Semisulcospira kurodai* Kajiyama et Habe

【選定理由】

カワニナ科貝類は県内にカワニナ *Semisulcospira libertina* (Gould)、チリメンカワニナ *Semisulcospira reiniana* (Brot) と本種が分布している。3種とも河川に分布しているが、本種は最も下流側に分布している。河川の下流域やその支流の流れのやや緩やかな場所に生息する。県内河川下流域はほとんどの場所で生息環境が悪化しているため、生息場所も少ない。本種の県内における生息場所は木村 (1994) を含めて現在9地点しかない。その後、豊田市 (川瀬・他, 2011) などでも生息地が発見されているが、近年岡崎市では生息が確認できず、木村 (1994) で確認された生息地が2ヶ所消失した。生息地、個体数共に少ないので将来的に絶滅危惧に移行する危険性がある種と評価された。



愛西市木曾川本流, 2006年10月31日, 木村昭一採集

【形態】

カワニナ科貝類は個体変異や地域変異が著しく、カワニナ、チリメンカワニナとは成貝の殻だけで区別することはやや難しい。殻長は40mm程度で、カワニナよりやや殻が細長く棍棒状で、殻底の肋が強くその数は6本程度と少ない。殻の色彩は本来、緑がかかった淡褐色である (図2) が、黒色の付着物で殻表が覆われている (図1) ことも多い。胎児殻 (体内に保有している胎貝; 図3) は他の2種が濃い茶褐色であるのに対して本種は淡いクリーム色で、殻長2mmを越す個体もあり他の2種と比べて大きい。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように県内の生息場所は少なく、個体数も少ない。豊川本流下流域、木曾川本流下流域 (木村, 2006) では、比較的広い範囲で健全な個体群が確認されている。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。静岡県西部から岡山県にかけて分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

カワニナ科貝類はホタルの餌生物として有名で、周知の通り水質の良い河川に生息する。前述のように本種はカワニナ科では最も下流に生息し、流れの緩やかな場所を好む。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述の通り県内河川下流域は生息環境の破壊が著しく、生息場所、個体数が減少している。

【保全上の留意点】

上述したような河川下流域の環境保全が必要である。

【特記事項】

岐阜県 (2010) では準絶滅危惧にランクされている。

【引用文献】

- 岐阜県, 2010. 岐阜県の絶滅のおそれのある野生動物 動物編 改訂版.
(https://www.pref.gifu.lg.jp/kurashi/kanky/shizenhogo/c11265/index_17185.html)
川瀬基弘・早瀬善正・市原 俊, 2011. 豊田市に生息する陸産貝類. 陸の水, 48: 9-16.
木村昭一, 1994. 東海地方の淡水貝類相. 研究彙報(第33報): 14-34. 全国高等学校水産教育研究会.
木村昭一, 2006. 愛知県におけるミズゴマツボの産出記録. かきつばた, (32): 22-25.

(木村昭一)